

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	民家小委員会	主 査 名 : 大場 修
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名 : 陣内 秀信
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	伝統的民家や町家、歴史的町並に関する研究や保存修復に関わり、学術的な立場からこれらの今日的課題を明らかにしつつ、課題解決に相応しい具体的な諸事業に取り組むことを目的としている。	
委員構成 (委員名(所属))	01 主査 大場 修 京都府立大学人間環境学部環境デザイン学科 02 幹事 平山育男 長岡造形大学造形学部環境デザイン学科 03 幹事 大野 敏 横浜国立大学工学部建設学科 04 委員 高橋恒夫 東北工業大学建築学科 05 委員 福井宇洋 福井大学工学部建築建設工学科 06 委員 上野勝久 文化庁文化財部建造物課 07 委員 片桐正夫 日本大学理工学部建築学科 08 委員 角 幸博 北大工学研究科都市環境工学専攻 09 委員 迫垣内裕 比治山大学短期大学部生活学科 10 委員 土田充義 鹿児島大学工学部建築学科 11 委員 土本俊和 信州大学工学部社会開発工学科 12 委員 溝口正人 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 13 委員 中川 等 大阪産業大学工学部環境デザイン学科 14 委員 原田聡明 八代市教育委員会 15 委員 三浦要一 高知女子大学生生活科学部生活デザイン学科	
設置 WG (WG 名 : 目的)		
2003 年度予算	230,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回民家小委員会 : 2003 年 5 月 6 日、出席者 : 9 委員 第 2 回民家小委員会 : 2003 年 9 月 7 日、出席者 : 9 委員
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>1. 民家・町並みニュース No.26 の刊行 民家・町並みニュースは、日本各地における民家・町並みに関する調査研究、文化財指定や登録状況、ならびに保存や活用に関する全国的動向を収集し、網羅的に把握しようとするもので、民家・町並み関係の総覧的意義を有する。資料的な価値とともに、1977 年 9 月以降、毎年発行し、今年で 27 年目を迎え、四半世紀にわたるその動向を記録したものとしても意義が高い。当委員会としては、今後もその継続を模索したいと考えている。</p> <p>3. 民家見学会の開催(9 月、三重県内) 30 名以上の参加を得て、三重県下の歴史的町並、近代住宅などを視察し、それぞれの現地にて保存等の担当者と協議した。見学会も多年度に涉って実施してるが、その意義・目的やその効果をはじめとして、学会大会における位置づけの仕方(大会実行委員会企画の中に民家小委員会主催行事として参加できるのか、制度的な面を含めた検討)などの点を含め、再検討が必要との認識にたっている。</p> <p>4. 民家研究史を総括した上で、民家の保存、再生など今日的な諸課題に対する啓蒙・啓発を目的とする著書の編集・発行 民家再生や活用策など、各地で様々な活動が展開しているが、必ずしもこれまでの民家研究の成果や広範な調査で得られた幅広い知見が生かされている訳ではない。現在の民家研究水準をふまえた民家通史の必要性とともに、現在脚光を浴びつつある「民家再生」に対して、民家が伝えるべき本質のとらえ方について民家小委員会として立場を明確に示すために、民家通史とともに調査手法や修復の基本姿勢に関する有益な情報を盛り込んだ出版物の刊行の必要性が確認された。 次年度以降、その具体的な作業に入ることが確認された。</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)

	<p>当初の活動計画に対して、日韓民家シンポジウム報告書の発行は、次年度送りとなったが、他については予定通り実施できた。</p> <p>特に、4. 民家の保存、再生など今日的な諸課題に対する啓蒙・啓発を目的とする著書の編集・発行、に向けては、その意義と目標を今年度確認し、目下その具体的な構成の段階で検討を行っている。</p> <p>民家見学会については、これまでの成果を確認し総括した。同時に、今後のあり方を再検討するとともに、05年度以降は、新たな理念と方策を立てるべく、検討を行っている。</p>
その他評価すべき事項	